

## 編集後記

工学研究科・工学部技術部は、全学技術センター工学系技術支援室の技術職員で構成されていて、多様な支援業務を行っています。工学部技術部は、人口分布ピーク近傍の3年間の退職により職員数は減少を続けて4月はじめには59名の技術職員が在籍するみこみです。

大学という職場で技術職員は、限られた人員で技術支援・教育支援を求められています。私たちの業務は工学研究科・技術部の身近な現場の需要にこたえることが今もいままでも変わらない基本になると思います。人員や社会の変化の中で従来の踏襲にとどまらない新たな関係を作っていけたらと思います。限られた人員で技術支援・教育支援がどのようなようであればよいのかを思うと大学で様々な人や分野と連携をすることから前進のきっかけを得たいと思ったりします。そのために継続的、自発的な技能・技術やコミュニケーション力の向上が必要です。組織的、または個人レベルで技術研修・研鑽、学内外の技術交流会、技術発表会へも積極的に参加し、いつも技術・技能の習得を行い、円滑に依頼された業務を行うことも大切です。本技報は、その活動の意義、発表、技術の継承や技術部の取り組みについて報告書としてまとめ発行しました。ぜひ今後の活動に活用頂けますよう願うばかりです。

最後になりましたが、原稿をお寄せ頂きました各執筆者ならびに発刊にご協力いただきました皆様に感謝いたします。

平成 22 年 3 月

工学研究科・工学部技術部広報委員

調子晴久 分析・物質技術系

宮嶋信好 環境・安全技術系

正中康博 装置開発技術系

永田陽子 分析・物質技術系